

総合支援学校 全学部  
特別活動

キーワード 要約筆記ソフトウェアの利用  
携帯ゲーム機の利用

## 「携帯ゲーム機を使った視覚的な支援」

### 1 活動の目的等

#### 目標

情報機器利用の制約を受ける校内・外での活動において、視覚的な支援を行い活動内容をより理解できるようにする。

#### 対応する学習指導要領の内容

教科・領域等	内容等
特別活動（学校行事）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校及び学年への所属感や連帯感を深める。</li> <li>・集団の中で望ましい人間関係を形成し、協力する態度を育てる。</li> </ul>
自立活動（コミュニケーション）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。</li> </ul>

### 2 展開の実際

校外学習で工場見学などを実施すると、聴覚障害の児童生徒全員に対して視覚支援の場を確保することは難しいケースに遭遇する。見学場所は常に移動するのでスクリーンやプロジェクタは使えない。通常では「手話」を使って説明の内容を伝えるが、全員が見える広い場所や明るさがなかったりすると「手話」を見ることができない。そこで、個人が持つことができる情報表示端末を使って、視覚支援に機動性を持たせた。

### 3 情報機器等の活用の工夫

#### 【要約筆記ソフトウェアの利用】

聴覚障害の児童生徒に情報を伝えるために、「手話」やスクリーン等を使った視覚的な手がかりの呈示が一般的である。しかし、伝えたい内容によっては、「手話」にも表現が難しい場合があり、また、環境や場面により十分に伝わらないときもある。さらに、瞬時に表される「手話」を長い時間、集中して見続けることは、児童生徒によっては体力的にも厳しい。

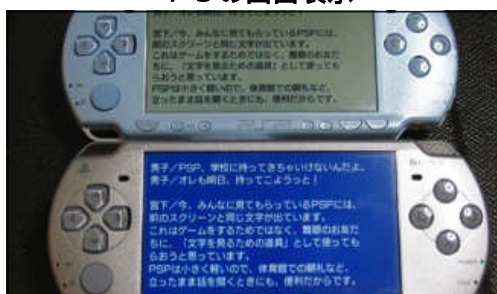
「手話」は見落とすと内容を理解することは難しく、過去の内容を確認することはできない。要約筆記により表示された文章は、前の文章も残っているので情報量の面でも理解も深まる。

要約筆記で広く利用されている「I p t a l k」は、LANで接続したコンピュータを入力用、表示用として、プロジェクタなどの表示機器でスクリーンに表示して利用する。LANは無線でも構築することができるので、無線LANが利用できる表示端末を使えば、場所の制約を受けずに要約筆記を利用することが可能となる。

#### 【携帯ゲーム機の通信機能の利用】

携帯ゲーム機には、インターネットに接続してWebサイトを閲覧できる通信機能や、動画の表示機能を有している。この機能を使うことで、LANを介して提供された機能を、様々な場所で利用できるようになる。

#### P Sの画面表示



#### DSの2画面表示



DSは、画面が2つあるためPSPより情報量を多くできます。

写真はいずれも「要約筆記ツール公開サイト」より引用

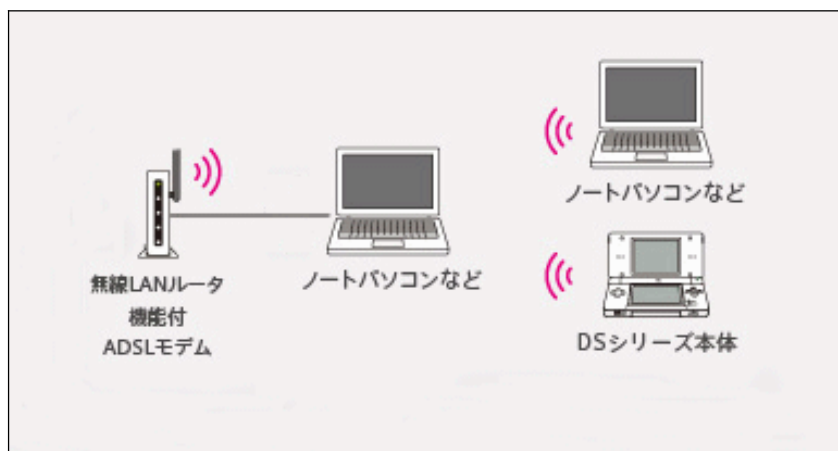
### 【情報機器等の活用環境】

要約筆記入力用コンピュータ 1台

(要約筆記表示用と併用する場合にはネットワーク・インターフェース・カードが2枚必要)

無線ルータ

携帯ゲーム機(“PSP”、“NintendoDS”等)



## 4 情報機器等の活用の効果

### 【考えられる効果】

通常の要約筆記で行うスクリーンを使う方法に比べ、児童生徒は立ち位置を選ぶ必要がなく、行動範囲の制約がない。

手元に情報が表示されるので、資料等を活用するときには視線を変えずに行うことができる。

「手話」に比べ、一度に得ることができる情報量が多いので、児童生徒に考える時間を提供することができる。

### 【改善・工夫すべき点】

情報源を提供するためには、「コンピュータ」と「無線ルータ」が必要なため、発信する側の機動性に制限が生じる。発信する側の機器も携帯可能にする必要がある。

情報の発信が一方方向なので、双方向での発信ができると利用の可能性を広げることができると考えられる。

携帯ゲーム機の画面に集中しすぎると、手話通訳者や周囲を見ることが少なくなり、状況の把握が不十分になる可能性がある。

情報通信機器の発する電磁波が、「補聴器」や「人工内耳」にどのような影響を与えるのか調査が進んでいないので、児童・生徒の健康面の様子をしっかりと観察する必要がある。

### 【将来に向けての展望】

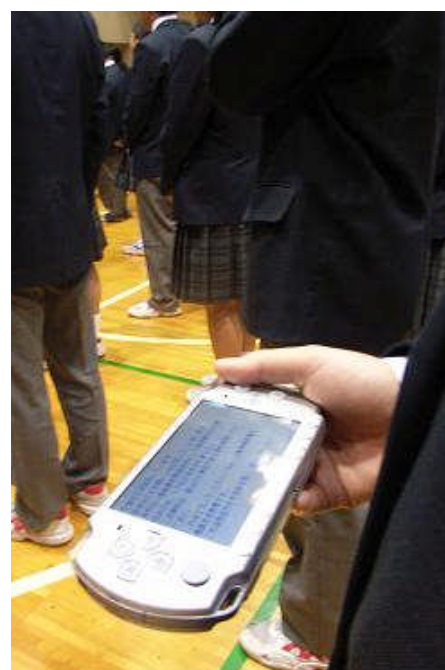
無線LANのインフラは、これから拡大されることが予想される。公の場所ほど無線LANを使った、聴覚障害者へ十分な情報提供が求められる。

「文字情報を提供する」「文字情報の提供を受ける」といったサービスの実現に向け、小型の情報端末は必要である。

その端末として、「携帯電話」や「ポータブルゲーム機」を利用する方法も考えていく必要がある。

聴覚障害者にとって、緊急時や災害時に情報を得ようとする時には、視覚情報による支援が必要不可欠である。携帯ゲーム機のメーカーでは、街中で無線LANを介した情報提供サービスを始めている。

このようなサービスを使い、大切に重要な情報を受信することができるように、学校内でも情報端末の利用に日頃から親しむことで、児童生徒が有効な利用法を自ら考えることができるようにしていきたい。



写真は「要約筆記ツール公開サイト」より引用